

# 令和4年度神奈川 ME-BYO リビングラボ 実証事業の評価（審査委員会評価）

## 1 実施事業者

第一生命ホールディングス株式会社

## 2 実証事業のテーマ

職業性ストレス簡易調査票と酸化ストレスマーカーの比較検討

## 3 実証事業の評価

本実証事業は、企業の従業員を対象に、7団体、約100名が参加し、ストレスチェックに用いられる「職業性ストレス簡易調査票」の評価結果と、尿から無自覚のメンタルストレスを可視化する「バイオピリン検査」の結果を比較し、その関係性を調べることで新たなストレスチェック指標の確立に向けた検証を実施した。参加者数は目標に至らなかったが、相関性を評価するための必要な参加者を得ることができ、概ね計画に沿って実施されたと評価できる。

実証の結果として、職業性ストレス簡易調査票ではストレスが高い結果を示した者が、バイオピリン検査では低く示されるなど、相関関係については予想に反するものとなった。また、本人の仕事のコントロール度、仕事の適性度、働きがいと両ストレスチェックとの相関関係についても、相関性の確認には至らなかった。専門委員からは、バイオピリン検査が、精神病発症リスクが高い状態である ARMS の早期発見・早期介入に役立つ研究テーマであり、今後さらに研究を続けられてデータを増やすと共に、ストレスに関わる因子との関係を明らかにし、ストレスマーカーとしての有用性が確立することで、社会実装が期待できるとした評価があった。

また、バイオピリン検査は、これまで主に精神病発症リスクが高い状態である「ARMS」の早期発見に向けたストレスマーカーとしての研究が行われて来たが、同検査を職業性ストレスの評価ツールとして、新たなストレスチェック指標の確立を目指した今回の取り組みは、評価できる。

今後は、ARMS の早期発見に向けた研究と併せて、職業性ストレス評価の分野においても、職場環境や業務状況に応じたストレスの状態と、バイオピリン検査の関係性について幅広くエビデンスが収集されることで、職業性ストレスが可視化されるストレスマーカーとしての有用性も確立し、職場のメンタルヘルスの未病改善を通じた社会貢献

に繋がる事を期待する。

令和6年3月27日  
神奈川 ME-BYO リビングラボ審査委員会